HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農村社會學に於ける基礎的諸問題に就いて
Author(s)	池田, 善長
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 3, 56-71
Issue Date	1934-11
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/10618
Type	bulletin (article)
File Information	3_p56-71.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

農村社會學に於ける基礎的諸問題に就て

池田善長

問合の問題に付其だ勝手乍ら左記頁の順に御讀み被下度候
56 59 58 57 60

目次

一、問題の提出
二、研究對象の限定
三、農村社會の本質的概念
四、研究の出發點
五、問題の綜合

一、問題の提出

農村社會學 Rural Sociology 或は村落社會學 Soziologie des Dorfes なる學が稍々獨立した學的型態をとりつゝ專門學者に依つて研究されはじめ、學界に注目さるゝに至つたのは必ずしも古い歴史を經過して居るとは思はれない。[1] 斯くの如く「新たに發現して未だ形成の途上にある」農村社會學の如き新しい學の「性質・對象・方法等を最もよく理解する爲には其發生の跡を大體回顧してみればいゝ」[2]のであつて、私は此意味からして斯學の基礎的諸問題を述べるにあたつて先づ其發生、發展の過程を要約して跡づけてみよう。

× × ×

1） Wisconsin 大學社會學教授 E. A. Ross に依れば農村社會學が社會の注目を惹くに至れるは 1908年頃であると。(Hawthorn:—Sociology of Rural Life. 序言) 又之に關する大學における講義は Chicago 大學に於て 1894年にHenderson 教授によつて講ぜられてゐる、吾國における先驅は昭和2年東大那須博士の講義であらう。(鈴木榮太郎:—農村社會學史 p. 16　那須皓:—農村社會學序說 p. 254)

2） エミール・デュルケム:—社會學と諸社會科學（フランス學會編、科學研究法）

するもので、彼は形式社會學殊にジンメル（G. von Simmel）に學ぶ處が大である如くである。即ち社會學の社會科學に占むる獨自の研究領域は集團過程及び集團形式であるとし、社會學の領域を農村に持ち來たしたものを農村社會學と考へ一社會學の分派であるとするのである。

三、比較農村社會學　ソローキン教授（P. Sorokin）[12]ジンマーマン教授（C. C. Zimmerman）の率ひる一群の學派で一般社會を都市社會と農村社會に分類し其相互的比較を試み斯くして農村社會特有の普遍的要素の抽出、發見を企てつゝあるのである。今其學論を詳細に述べる事は興味ある問題であるが本稿の必要としない處であるから便宜上、杉野助教授[13]の要約された點を擧げて夫れに代へたいと思ふ。即ち

一、一切の說教的農村生活改善論は除外し
二、研究材料たる農村社會や都市社會を一地方、一時代に局限する事なく
三、研究の中心を人口の農村化・都市化に關する社會法則の發見におき
四、之等法則の發見には一般社會學の原理を適用すべき事

等であると要約されて居る點を以て其學論の大體を推知し得よう。

× × ×

以上以之概觀するに初期に於ける斯學は全く農村社會現象を實利的に取扱ひ研究目的を農村共同社會福祉なる理念に結付け其理想に合目的的な政策を發見せんとして凡ゆる學的原理を農村的事情に集大成したものと見得るのである。其後に於ける傾向も或は形式社會學 die formale Soziologie に據らんとするもの或は社會化 Socialization なる功利的理念に動かされ研究對象は初期の斯學の夫れを踏襲せんとする者等、全く其の歸一する處を知らざる雲を摑む如き夢の中にある狀態にあるのである。爲に獨自の研究內容と獨自の理論を盛る事に急にして農村社會に於ける一般性を發見し普遍化的社會學たらんとするの努力はあつても未だ統一された體系を築き得るには立到つて居ない。要之現在に至る迄の農村社會學は假令其努力はなされつゝあると雖も未だ獨立した科學として

12) Sorokin & Zimmerman:—Principles of Rural-Urban Sociology, 1929.
13) 杉野忠夫:—ジンマーマンの農村社會學論（農業經濟研究 8 卷 2 號 p. 126—133）

斯く研究の對象とされたものは當時の農村社會問題以外の何物でもなく、極めて漠然たる對象を社會諸科學の智識を動因して政策的見地に立つて考察し、農村生活者の共同福祉といふ理想に到達せんと試みられた實用學であり、其處には何等の社會學的理論もなく百科全書的役割を其特徴として居た如くである。

以上は斯學發生の頃より一九二五年頃迄の大要であるが、最近一九二五年頃から農村社會學界は學問的內省期に入り過去の斯學に對する批判乃至論難を試み、方法論的にも一大轉機を劃して科學としての存在を基礎づけんとするの潮流を示して來たのである。[8] 以下姑く私は此時代の學說の中心點の所在如何により便宜上次の三種の型に分つて其傾向の大要を知る素材たらしめる。

一、社會化農村社會學　ホーソン教授（H. B. Hawthorn）ギャルピン教授（Galpin）に依つて代表せらるゝもので農村社會學體系の樹立には一般に顧慮する處なく社會學の理論を指導的・基礎的原理として或特定の立場から主要農村社會現象を研究せんとする一派である。[9] 即ち社會化といふ側面から農村社會現象を解剖・分析・綜合せんと試みるものであるが此社會化なる觀念はホーソン教授が社會學上から延用せる考へで疲弊せる農村文明を恢復或は再建せんとする爲には社會的接觸の頻度をより多くせねばならぬ、換言せば社會化に依つて到達せんと考へたのである。然るに此考へ方は動機に於て極めて功利的な分子が介在して居るので未だ夫れによつて科學性を充分に持ち得ない憾みがある。[10] 即ちホーソン教授の社會化なる觀念は農村文明の再建のためには先づ農民の精神的向上を計る事が先決問題であるとし、夫れが爲には社會的榮養換言すれば精神的收入が必要であると考へ其意味に於て社會化の必要を彼の指導原理としたのである。

二、形式農村社會學　サンダーソン教授（D. Sanderson）によつて導かれる一派で農村に於ける社會集團の集團過程及び集團形式を以て研究對象とするのである。[11] サンダーソン教授に從へば斯學は從來の如く農村社會問題の政策的研究を直接の目的とせず社會學的に諸農村社會集團の歷史と現狀を分析し農村共同社會を研究せんと

7）拙稿：—農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 87
8）鈴木榮太郎：—農村社會學史 p. 79
9）H. B. Hawthorn：—Sociology of Rural Life, 1926. p. 3--9
10）鈴木榮太郎：—農村社會學史 p. 83
11）D. Sanderson：—The Farmer and his Community, 1922.

凡て科學の發生動機をみるに科學の理論が其科學の成立を必要ならしめたのではなく社會の實際的要求の下に或は必要の下に其科學が發生するに至つたものゝ如くである。農村社會學に於ても農村社會に於ける何等かの必要若しくは要求が斯學をして發生せしめたものである。[3] 具體的には農村社會に何等かの改善を必要とする如き社會的平衡狀態の破壞又は社會的苦痛の發生を前提として發生せりと思惟され得ると言ふのである。之に就てシムス教授（N. L. Sims）は「農村社會學は農村生活に正調を失つた時に發生せるもので宛かも一般社會學が都市生活の多くの難問題に遭遇せる時發生せるものと同樣である」[4] と論じて居る。

今シムス教授の說く如く一般社會學の發生が都市生活の矛盾發生に起因するや否やは此處に問題とする處ではないが、とも角農村社會學は斯く農村社會生活上の均衡破綻に由因して發生せるものと言ふべきである。

斯くの如く斯學を發生せしむる動因が社會的矛盾に存する以上、斯學研究の學的根據は當然其矛盾克服といふ點に在らねばならぬ。されば當時の斯學は最善の理想狀態に到達し得る如き農村文明の維持、發展を計らんとして從來行はれた經濟的見地からの觀察とは別な側面を强調し組織的に人間的、社會的立場を以て農村を檢討せんと企てたのである。即ち農村に生起した社會的矛盾と考へられるものは夫れが如何なるものであらうとも斯學は考察の對象として取上げたのである。今試みに當時の農村社會學者として數へらるゝ代表的な諸學者の[5]著作を通して彼等が考察の對象とした主要問題を列記すれば大體次の如きものである。[6]

一、農民・農村に於ける保健・衞生問題
二、土地・小作制に關する問題
三、農民の勞働に關する問題
四、農村の教會に關する問題
五、農村の交通に關する問題
六、農村に於ける教育の問題

3） P. Vogt:—Introduction to Rural Sociology, 1924. p. 2—4
Gillette:—Rural Sociology, 1922. p. 4—5
4） N. L. Sims:—Elements of Rural Sociology, 1928. p. 8—13
5） Gillette:—Rural Sociology, 1922.
P. Vogt:—Introduction to Rural Sociology, 1917.
Phelan:—Readings in Rural Sociology, 1920.
6） 鈴木榮太郎:—農村社會學史 p. 41—42

の體系は勿論態樣も具へずして研究の途上にあると言はんより其出發點にあるかの如き觀がある。然らば何故斯かる科學性を欠如した百科全書的集大成 encyclopaedie accumulation の域を脱せずに居るかは斯學の基礎的諸問題に關する考察が從來餘りに閑却され勝であつたからに他ならないと私は考へる。此意味に於て斯學をして科學的な基礎を與へ理論を與へる爲の基礎的研究は今後の斯學に課せられた緊要の問題であらねばならぬ。斯かる極めてグルンドリツヒカイト Gründlichkeit な問題を先づ再檢討してはじめて科學的基礎に立つ農村社會學が將來生れ出づるであらう。

とも角從來の斯學が斯くの如く夢の時代にある事は農村社會學に於ける基礎的諸問題例へば其研究對象に關する問題或は農村社會其物の本質的見解の問題等々が等閑視されたか或は未だ夫れに結論の與へられるに至つて居ないといふ事に存するを思ひ此處に二、三基礎的な問題を取上げて姑く論じてみたいと思ふ。

二、研究對象の限定

從來の農村社會學を概觀する時最も理解に苦しむ一つの問題は其研究對象に關する問題である。既に述べた如く社會學に於て所謂綜合社會學がなしたと同樣に單に社會諸科學の提出する理論の綜合集積を之れ事とするもの或は農村社會問題に對策を講ぜんとする社會政策的なもの等が殆んど總ての斯學の狀態であり其處に何等の科學的基礎なく學史的には前期時代に屬するものであつた。斯く農村社會學の組織體系が整備されない大きなそして唯一の原因は既に指摘した如く基礎的諸問題殊に研究對象の明確なる限定に從來關心を欠いたといふ事實に歸せしめ得ると思ふ。斯く研究對象の明確を欠くといふ事は言ふ迄もなく事實の集大成 accumulation となり極めて無方針に夫れが論ぜられる結果として科學としての存在を危ぶまれるのである。又研究對象に特異性がなければ敢えて一科學の存在を理由づける根據を失ふに至る。此處に少く共斯學が獨立せる研究分野を以て科學性を具へ

ん爲には研究對象の限定なる問題が重要となるのである。

次に私が研究對象を如何に決定するかに先立つて從來の諸學者が夫れに就て如何に考へて居たかを略述して參考としよう。先づ前期農村社會學を代表するジレット教授（Gillette）であるが彼は其著作[2]を通して見る時は全く斯かる問題に關しては無關心であつたと考へられるのである。[1] 其研究內容が農村社會問題對策の綜合・集積である事は農村科學の分化 differentiation しすぎた點を綜合的 synthetic に觀察するといふ意味における價値しかなく、科學本來の貢獻である特殊法則の定立を試むる事は不可能であり全く學の獨立性 independency も保ち得ず無意味 devoid of sense である。

次に社會化農村社會學に於けるホーソン教授であるが彼は農村に關する諸科學の目的を大體に於て次の三つに分つて說明して居る。[3] 即ち農業技術學は最大の生產を、農業經濟學は最大の利潤を、農村社會學は最大の幸福を目的とするものであると。[4] 然るに最大幸福の生活なるものは到底農村社會學によつてのみ到達し得るものでなく他の農村諸科學との協力に於てはじめて望み得る處のものである。又農村社會の幸福といふ如き問題は元來社會哲學或は社會倫理學等の分野に屬するものである。故に農村社會の最大幸福なる概念は特殊なる研究對象たり得ないので斯かる概念は科學の獨立性を基礎づける研究對象としては不充分であるといはねばならぬ。

されば科學として農村社會學は如何に其對象を決定すべきであらうか。後に論ずる如く斯學が特殊社會學の一部門であるとするならば當然其對象も社會學から導き出さるべきである。[5] 斯く考ふる時は社會學の對象たる集團關係を農村社會なる特定社會に限定せるものを以て農村社會學の對象とすべきである。此目的に適する社會學は形式社會學であるから此意味に於てサンダーソン教授の形式農村社會學は諸多の學派より稍々對象の限定といふ點に關して優るものと言へよう。併し形式社會學其物の對象とする事が果たして妥當なりや否やの檢討を必要とするは言ふ迄もない。

1）井森陸平：—農村社會學の新傾向（社會學雜誌 53號）
2）Gillette:—Constructive Rural Sociology, 1913.
Rural Sociology, 1922. Rural Sociology, 1926.
3）H. B. Hawthorn:—Sociology of Rural Life, 1926. p. 3—9.
井森陸平：—農村社會學 p. 10
4）拙稿：—農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 315
5）前揭書 p. 273

次[6]に比較農村社會學即ちソローキン教授の見解は其方法に於て極めて興味あるものであるが對象に關する限り前者形式農村社會學に一歩を讓るものである。

扨て然らば私は如何に對象の問題を考へて居るか。夫れは基礎科學をなす社會學に於ける對象の問題を私が如何に考へるかに依つて自ら明かになる。社[7]會學に於ける私の立場即ち「人間の集合形象 Kollektives Gebilde に於ける相互作用 Wechsel wirkung の內容及び形式に關する諸關係並びに其派生現象」を以て社會學の對象とする事から農村社會學に於ても「人間の集合形象としての農村社會に於ける相互作用の內容及び形式の諸關係並びに其派生現象たる農村社會現象」を以て對象とするのである。

扨て社[8]會學的對象決定の意義の廣狹に體系分類の基準を求めて從來の社會學を分類すれば大體社會現象 Soziale Erscheinungen を對象とする綜合社會學及び社會の基體を對象とする形式社會學の二者に分つ事が出來る。綜合社會學は「機能 Funktion としての社會現象に即した社會學」と言ふべきで人間相互が形成するに至つた集合形象即ち社會基體を支持者として發現する社會現象の統一的考察を目的としたものである。從つて綜合社會學は社會現象の相互關聯の檢討に急にして其基礎となる集合形象としての基體の研究は等閑視され基體なき機能・作用のみの研究に走つた觀がある。形[9]式社會學は「社會基體に即した社會學」ともいふべき綜合社會學が從屬的にのみ或は全く關心されなかつた社會基體に對して研究上獨立の主位的意義を與へんとして歷史的・社會的實在に於て其集合形象として現はれた人間的關係を主として考察せんとしたのである。然るに社會現象の相互關聯の檢討は窮極に於て其社會現象を現象せしむる支持者即ち基體の本質を把握する事を前提とするか或は夫れに歸着すると考へられるのである。此處に於て私は前述兩者の綜合に於てはじめて一つの社會學が成立するものであるといふ立場をとるのである。斯かる社會學上の見解から如上の農村社會學における對象に關する結論が生れるのは當然である。

6）Sorokin & Zimmerman:—Principles of Rural-Urban Sociology 參照
7）拙稿:—農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 273
8）新明正道:—社會學 p. 2
9）前揭書 p. 23

斯く私が今此處に對象を「農村社會なる基體と其派生現象たる農村社會現象」なりとするも農村社會の本質的概念 Wesentlich Begriff の如何により即ち對象を如何に考ふるかに依り再び混亂を招くに至るのである。[10] 故に私は次に農村社會に關する若干の私見を試み度いと思ふ。

三、農村社會の本質的概念

農村社會學に於て對象とする農村社會 Rural Community とは一般に謂ふ農村或は村落 village, Rural districts とは全く異つた概念を有する。即ち農村[1]も都市も共に人間の集合によつて形成された定住の一型體 Ansiedlung 或は地域であり集合形象 Kollektives Gebilde 或は社會學上集團 die Gruppe として觀念せらるゝ農村社會或は都市社會とは夫々相對的觀念の下に理解せらるゝ處のものである。要するに農村及び都市は經驗的實在であり農村社會及び都市社會なる概念は此經驗的實在を其本質的關係へ還元せるものであると理解する。換言すれば農村とは具體的な村即ち特定の地域内に於て地緣的に傳統的に共同社會（即ち農村社會）を營む主として農民よりなる定住の一型體或は地域を指すもので、之に對し農村社會とは一般社會から抽出されて斯かる實在する農村自體に綜合抽象されて居る人々の集合形象或は集團を謂ふのである。

從來の農村社會學者は斯かる區別を其論議の出發點に於て嚴密に吟味しなかつた爲、社會學的に農村を取扱つて居るのか或は現實の農村を指して居るのか全く其處に明瞭を缺いて居る。農村社會學と稱しながらも何等の社會學的な見解と立場を缺き農村社會問題一般に關する叙述學なる或は百科全書式の寄細工學 mosaic work となる傾向にあつたのも實に研究對象である農村社會を社會學的な夫れに求めずして單なる農村といふ漠然たる經濟的社會的・宗教的・教育的・道德的等々種々な農村的狀態に於ける混一體を豫想した爲であらう。私は斯る見地に於て何としても農村社會なる概念を實在する農村から區別するの要を主張したい。といふのは事物の現象は經驗

10) 拙稿 —農業政策の基調に就て（農業と經濟 1卷 5號）

1） 拙稿：—農業政策の基調に就て（農業と經濟 1卷 5號 p. 112）
拙稿：—農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 328

的主觀にのみ依つては其事物の本質的關係を把握し得られぬを以てゞある。屢々引用される例であるが水中に挿入された指は之を外部より見る場合は宛かも中途にて曲折せられたるが如く見ゆる現象に則して指其物が曲折せりと觀ずるは誤謬である。此場合光線の屈折關係 refraction によりて斯く映ずとなす物理學の說明が此現象を本質的に把握する所以である。凡て事物の現象型態は其本質的關係を如實に表現するものに非ずして斯かる現象型態を其本質的關係に還元する事其事が學問的思惟である。即ち農村とは此處に謂ふ經驗的現象であり農村の現象型態は必ずしも其本質的關係の如實の表現に非ざる故にである。斯くして學理は之を本質的關係に還元し「見えざる手」を曝露するにあるのである。

要之農村及び農村社會の意味する形式に於ける差異は內容に於ける差異を生ずるので農村といへば外部的に政治上・經濟上若しくは產業體としての觀察を前提とするに對し農村社會は內部的に人間的・集團的若しくは社會體としての觀念を主位とするものである。

以上は農村社會を理解する素材として農村との對照を試みたのであるが、次に私は更に遡つて農村社會なる社會學的概念を我々に與へる農村とは如何に理解すべきやを相對概念なる都市との對比によつて明かにする必要がある。斯くして農村の實體を把握する事によつて農村社會の本質的概念 Wesentlich Begriff を究明し得ると考ふるからである。[2] 農村と都市の相對概念の中に如何なる區別を立つべきかに就て私は先づ一般に農村と謂はれ都市と稱せられるものを相互に比較し、其處に特性を發見し其結果に基いて兩者の區別せらるべき依據を立てたいと思ふ。

[3] 先づ第一に一般に都市は其限定せられた地域內に於て人口密度 density が農村より稠密なるを普通とする。第二に其地域內に於ける人口分布 distribution が都市に密にして農村に粗なる傾向があり、第三に其經濟生活上 economic conditions 農村は主として生產を都市は消費を中心とするのである。之に就てはアダム・スミス(Adam

2) 前揭書 p. 329
3) Sorokin & Zimmerman:—Principles of Rural-Urban Sociology, 1929. p. 56

Smith) は都會を以て農村に於て生産せる食糧の餘剰によつて生活する人の集合體なりとしゾムバルト (Werner Sombart) が都會を以て消費の中心 Konzentration des Konsums と稱した事に於ても首肯し得るのである。第四に職業上 occupational conditions 都市は其の種類複雜にして商工業を主要職業とするに對し農村は極めて單純にして殆んど農業關係の職業に依存するを見る。第五に職業關係に由來する住民の[4]等異質性 Homogeneity & Heterogeneity であるが都市は概して異質性 Heterogeneous に農村は等質性 Homogeneous を以て其特性と考へられる。即ち都市は政治・經濟・教育・交通等百般の文化的中樞地帶をなし、職業的には分化 differentiate され、分業 division of labor を營み、社會機構上は完全なる階級分裂が行はれ、爲に一つのメルテング・ポット Melting Pot をなして居ると稱せらるゝに反し、農村は其經濟活動の根據が單に農業關係にのみ存し他は殆んど數ふるに足らぬものであり又一面農業經營上の特質から家族一體となり而かも父祖傳承して其業にたづさはる結果農民型なる一種の共通型 Typus が自然と形成されるに至るのである。此處に都市に於ては異質性が、農村に於ては同質性なる社會學的特質が現はれるのである。第六には兩者間の環境上 Emviromental conditions の差異であるが農村は種々なる自然的條件に被支配的な依存關係大なるに反し都市は極めて小なる事實である。第七には文化的娯樂的施設便宜 Facilities の都市に重く農村に輕き事も一つの差異乃至特異點として擧げ得よう。第八は人口構成 Constitution の狀態であるが都市は農村に比して生産的年齡層多く、又[5]女子の數都市に多く農村に少く、不具癈疾・犯罪・醜業婦等の經濟的不生産層の都市に多く農村に少きを見る。第九に行政上の區劃 administrative territory にして都市と稱せられるは概ね市制 municipality を施せるを、農村は主として町村制 the ordinance regulating town and village organization を施せるを知る。

其他種々なる差異・特質を兩者間に見出し得るのであらうが私は以上九者を以て主要なるものとして擧げ得ると思ふ。以上九者を要約すれば一、二、五、八は人間的關係に、三、四、七は經濟的關係に、六は自然的關係に[6]

4) 前掲書 p. 23—8
5) 我國における事情は統計上必ずしも然らず。
6) Sorokin & Zimmerman :—Principles of Rural-Urban Sociology, 1929. p. 13—58

九は法制的關係に因るものとされ得る。今諸有四關係即ち自然的・人間的・法制的・經濟的關係に分つ事が果たして分類方法上妥當なりや否やはとも角として斯く分類考察する事が至便であると共に論理上必ずしも許容せられぬ理由のない事より私は姑く此等四關係に就て都市・農村の區別規準に關して考へて見度い。

一、自然的關係　農村は都市に比して自然的條件に支配さるゝ處大なりといふのであるが事實上當れりとするも之を以て都市及び農村を區別するの規準とはなり得ない。

二、人間的關係　之は人口密度・人口分布・人口構成及び住民の等異質性に區別を求めたので稍々考慮の餘地を存するものゝ如くである。即ち農村とは人口粗にして住民は分布上散在 Scattered population し、人口構成は年齢上は幼年者最大・老年者最小・中年生產人口層の中間を占め、性別上女子の比較的少く所謂經濟上不生產層の比較的少數にして同質性なるを稱するのである。[7] 然るに斯かる特質の如きは一般的なものでなく例へば女子の數の如き吾國は農村に比較的大なるをみる等の關係よりして如上人間的關係のみを以てしては尙兩者間區別の依據としては不充分なるを思ふのである。

三、法制的關係　市制なりや町村制なりやを以て區別せんとするものであるが實狀を見る時、町村制を施せる處に於ても尙都市たるの實質を具ふるものある事より此區別も絕對的なものたり得ない。

四、經濟的關係　職業上の分化、文化的設備の狀態如何による區分法であるが之又兩者を區別するの依據としては不充分である。

扨て如上四者に就て總て夫れのみ單獨によつては區別の規準となし得ぬ事を知つた我々は此處に於て何等かの方法を發見せねばならない。高岡博士は行政上の分類を利用して市制を施せるものを都市、夫れ以外を總て農村とされる所謂法制的關係に依據され、米國に於ては多く人口數により二萬五千人以上を都市夫れ以下を農村とする所謂人間的關係に依つて居る。ゾムバルトは所謂經濟的關係よりして經濟的意味に於ける都市とは彼等の生活

7）拙稿：一農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 437

資料を得るに他の農業的勞力の生產物の依存して居る處の大なる密居地なりとして居る。以上は法制的・人間的經濟的の關係を單獨に區分の標準とせる例であるが私は之等は稍々科學的なりと考ふるも未だ充分なものとは考へられぬのである。何故ならば市制施行地は之總て都市たるの性質を有するも町村制施行地にて尙都市たるの形質を持するもの多き實狀あり、又一定人口以上にて尙農村、以下にて尙都市たるものありて其中間に位する者の歸屬に困難なればである。

依つて私は次の如く都市及び農村を區別するに法制的・人間的・經濟的關係の綜合に於て其規準を求むるを至當とする。即ち市制施行地及び其他町村制施行地にして人口集落度極めて密にして其職業上農業に或は商工業に依存する關係が後者により大なる地域を都市とし他を農村とする考へ方である。此處に都市及び農村を區分すべき人口集落度及び商工業農業の依存關係は吾國に即した實證的研究に俟つて適當なる規準を後日求めて發表する。尙此處に注意すべきは吾國現行法上、市とは人口三萬人以上とされて居るが多くは市域內に於ても其組成分子として實質上農村的部分の存する事である。依つて私は如上の都市にして尙其周圍に農村的地帶あれば之を都市農業地として都市に含ましめ、農村にて尙其中に都市的地帶あれば之を農村市街地として農村に包括せしめる。即ち

都　市＜純都市　都市農業地

農　村＜純農村　農村市街地

純都市及び純農村は極めて明確なる夫自身の特性を發揮し得るも都市農業地及び農村市街地は甚だ此點漠たるものである。即ち都市農業地とは主として都市の周圍にありて通常郊外と稱せられる地方は之に屬し或は都市的色彩を或は農村的田園色を帶ぶるものにして私は此地方を便宜上都市に包括せしめたのである。又農村市街地も農村にありて市場・交換の中心をなし商業地的色彩の多分なるを特長とするもので同樣便宜上農村と考へたので

ある。

以上は農村社會なる社會學的概念を與へる農村の實體を概念的に明かにし農村社會の本質的概念を把握する一方途としたのである。即ち如上の農村なる定住の一型態をなす地域に基礎を置き一般社會から區別された社會こそ我々の研究對象をなす農村社會である。主として此場合農民であるが二人以上の農民が地緣的に同類的に共に農業上の利害を中心に獨自の存在を維持しながら共同生活を營む一定地域に於ける集團こそ農村社會の謂ひである。換言すれば一般社會から特に農村として抽出された一定地域内に於て營まれる相互作用 Wechselwirkung の關係を通してみた一つの集團或は集合形象である。[8]

斯かる農村社會の本質は然らば如何に理解すべきであらうか。[9] 多少岐路に屬するが參考迄に述べよう。社會の本質をジンメルに從つて心的相互作用に求むる私は農村社會が農民によつて構成された集團即ち農民相互が農業なる共通利害を通じて相互關係にある狀態である事から農村社會に於ても其心的相互作用を以て本質なりと考へ度い。集團を形成する事は要するに其構成員間が相互關係にある狀態、換言すれば他より衝動を受け或は他に衝動を與へる能動・受動の關係にある事である。依つて斯かる關係の本質をなすものは言ふ迄もなく心的相互作用に他ならない。或者は言ふ、農村社會の本質は同類意識 Artbewusstsein なりと。然れ共之は農村社會を構成せしむる促進力 stimulate force 或は結合を强化する力ではあり得るが本質とは考へられぬ。

扨て研究對象も限定せられ其形式上の内容上の意義 Begriff も明かにせられたのであるが次に私は基礎的な問題として研究上の出發點に關する問題を考へる事にする。[10]

四、研究の出發點

研究上の出發點は結局何に求むるのが最も至當なりやの問題であるが之は要するに研究對象を社會學的に分析

8）拙稿：一農業政策の基調に就て（農業と經濟　1卷 5號）
9）農村社會の本質に關しては稿を改めて發表するの機會を持ちたいと思ふ。
10）拙稿：一農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 277

解體して夫れを構成する最も原本的な要素を抽出し以て其出發點と考ふるのが最も研究の便宜上妥當であらう。之は宛かも生物學に於ける細胞の如きものである。由つて私は姑く農村社會の構成要素に就て述べなければならぬ。

私は社會の構成要素を其限定された一社會内に於ける實在的個人から抽象された人間なる一要素と考へ、マルクス（K. Marx）の三要素說其他ウォルムス（R. Worms）の二要素說は社會の規定要件或は條件をなすに止る環境を以て其一要素と見做す事から贊成出來ない。依つて農村社會を構成する要素も當然其社會内に在る人間的要素にのみ求めねばならぬ。凡ゆる事象乃至事實を捨象して農村社會を考へる時或は觀念的に今農村社會を構成せんとする時何が最も農村社會の構成上要素的であるか、何が其前提要件たり得るか。斯く考ふる時農村社會の本質たる相互作用、農村社會の構成動因たる關心の連帶を發現せしむる農民の存在ありてはじめて農村社會なる實在を認識し得るに至るのである。即ち農民なくしては農村社會の存在は認められぬ。

扨て私は農村社會の構成要素を以て農民なりと斷じたのであるが然らば農民なる概念は社會學的に如何に理解すべきやといふ問題が發生する。一般に農民と稱する場合夫れが意味する内容は現實の耕作農民を指稱するのであるが私は更に意義を廣めて農業に直接從事せざる其家族をも農民と考へ廣い。即ち農村なる地域に定住して直接農業に從事する者及び其家族構成員を謂ふのである。斯かる現實の農民の總和を即ち一種の農民層或は農民型なるものを觀念的に把握せるものを農村社會の構成要素と考へるのである。即ち農民といふも此場合二種の意義を有するので前者は實在する農村の構成要素であり後者は社會構成物としての農村社會の構成要素である。此關係は宛かも都市における市民が都市社會學 Urban Sociology 上に於て觀念化された市民を意味し個々の都市住民を指稱せざると同義である。

今農村社會學上農村社會構成要素としての農民を更に說明する爲、其特性を社會學的に述べて理解に資しよう。

1）拙稿：一農村社會學の獨立科學としての成立に關する研究（卒業論文）p. 283
2）Marx-Engels Archiv I. S. 237

先づ農民は一般に信仰心厚く從つて迷信し人情敬虔に富み服從的にして經濟的手腕を缺き極めて宿命保守的なる缺點と共に質實朴健勤勞の精神に富むの長所を有すとされる。然るに之を社會學的特性としてみる時は同質性なる點に歸する。即ち農民なる一種の型を想像し得るので此場合都市社會 Urban Community に於て市民の異質性なるのと相對的特性である。都市は經濟的に社會的に政治的に或は職業上分化されて居るに反し農村は職業上夫等の分化は認められず全く之と異る狀態に在る。依つて都市社會の職業分化から由來する市民の信仰・趣味・風俗習慣・言語等或は諸般の行動一般に於て著しく異質性を帶ぶるに對し農村社會にては農業なる單一化された職業を主とする爲其農民は從つて同質性を帶ぶるに至るは當然の事である。

私は斯くの如き同質性の下に一括せらるゝ農民而かも實在的農民から抽象された農民を以て農村社會の構成要素と考へ同時に其研究上の出發點と考へ度い。

五、問題の綜合

農村社會學が少く共專門學者に依つて研究の對象とされる以上夫れが從來の狀態より一つの獨立した學的體系を具へた科學としての存在を要求するに至るは當然である。即ち百科全書より箇別科學へ *von Enzyklopädie zur Einzelwissenschaft* の道である。單[1]なる農村社會調査 Regional Survey, Rural Social Survey は一つの研究資料であり、農村社會問題 Rural Social Problems の調査は主として農業政策上の素材でしかない。勿論斯かる資料 data は資料 material for research としての價値を有しては居るが夫以上のものではない。農村社會學の存在を理由づけ基礎づける學的根據は一に夫等資料より導き出された體系と理論が他の諸科學殊に農村諸科學と競合せざるの點に存する。換言すれば研究對象の特異性といふ事は先づ科學の獨立を保つ上に缺くべからざる要件である。斯かる根據の下に私は先づ農村社會學の今日に至る迄の發展過程を跡づける事に依つて其科學性の缺如を指

1）S. Branford & A. Farquharson:—An Introduction to Regional Surveys, 1924

摘し、其由因を基礎的諸問題に對する考察の不充分なる事或は夫れの結論への到達に至らぬ點を擧げ夫れに關して最も重要と考へらるゝ研究對象の問題を取扱つたのである。

假令研究對象を決定したからとて其對象の意味する內容を明かにしなければ單なる文字の上の決定に過ぎざる結果となる。其處で私は次に農村社會に關する社會學的概念を經驗的實在なる農村との對比に於て農村社會學に於て考察の對象とする意義を附與したのである。

次に私は研究の出發點といふ事の重要性を思ひ、何を以て農村社會學研究の出發點とすべきやを考へたのである。之に關しては農民なる社會學的概念を個々の農民の集團によつて出來た數學的總和以上の一つの農民層或は農民型といふ觀念に依つて理解し、夫れを農村社會の原本的構成要素と考へ同時に研究の出發點と考へたのである。

× × ×

要するに本論は如上二、三の基礎的な問題を提出して一つの考へを述べた迄のもので之を以て農村社會學に於ける絕對的な、或は通念であつたり、又將來斯かる方向を斯學が自らとつて進むであらうといふ如き指針を與へたりするものではない。飽く迄一つの見解でしかない。之以外にも尙多くのグルンドリッヒカイト Gründlichkeit な問題の存在も考へられようが夫れは後日の機會を待つて本稿は先づ主として對象の問題に關して述べたものである。—〔完〕—

昭九、七、廿六——農業經濟學研究室にて